

定マレルニ由リテ、預メ稱シタマヒシモノニテ、藤原仲麻呂ガ、既ニ太保ニ任ゼラレテ、其日建
言シテ太保ヲ置キ、類聚三代格天平勝寶元年六月廿六日ノ官符ノ、改元前數日ニ在リテ、天平
勝寶トアルガ如クナラン、彼此對照シテ以テ當時ノ狀ヲ知ルベシ、故ニ今聖武天皇ノ出家ヲ
以テ、天皇出家ノ首ニ居ケリ、

〔續日本後紀仁明〕嘉祥三年三月丁酉、是日天皇落飾入道、誓受清戒、四品中務卿宗康親王、從四位上
阿波守源朝臣多、同時入道、並天皇之皇子也、時人莫不悲之、己亥、帝崩於清涼殿、時春秋四十一、

〔皇年代略記村上〕康保四年五月廿五日、崩四十二、先御落飾法、

〔百練抄花山〕寛和二年六月廿二日、夜廿三日、日本紀略作、天皇偷出宮中、向花山寺出家、年十九、法、僧嚴久

藏人右少辨道兼扈從、以左少將道綱獻劔璽於東宮、道兼之謀也、中納言義懷、左中辨惟成、追參花山
寺、同以出家、

〔天鏡裏書〕花山院御事、在位二年、冷泉院第一皇子、略、寛和二年六月廿三日、丑刻許密密出禁中、

向東山花山寺出家、左少辨藤原道兼奉從之、先之密奉劔璽於春宮、翌日招於權僧正尋禪剝御頭法

名入覺九年十

〔繁花物語花山〕一條殿の女御花山女は、略、中はらませ給て、八月といふにうせ給ぬ、中うち花
山にもたれこめてぞおはしまして、御聲もをしませ給はず、いとさまあしき迄なかせ給、御め
と達せいし聞えさすれどきこしめしいれず、あはれにいみじ、略、中寛和二年にもなりぬ、略、中い
かなるころにかあらん、よのなかの人のいみじく道心おこして、あまほうしになりはてぬとのみ
きこゆ、これをみかどきこしめして、はかなきよを覺しなげかせ給ひて、あはれ弘徽殿子、略、中いか
につみふかゝらん、かゝる人はいとつみおもくこそあなれ、いかでかのつみをほろぼさばやど
おぼしみだるゝ事ども御心の中にあるべし、この御心のあやしうたうどきをりおほく、心のど